

◇職員紹介◇

管理栄養士 遠藤 みどり(後列右端)

武蔵野徳洲苑開設時より勤務しています。平成25年7月に長男を出産、10か月の育児休暇後平成26年5月より職場復帰しました。管理栄養士として入所者が食べやすい食形態・食量などを多職種と協議しお食事の提供を行っています。

武蔵野徳洲苑では、千葉セントラルキッチンにて『ニュークックチル』というシステムで食事提供を行っています。『ニュークックチル』とは、加熱調理されたものを直ちにチルド状態に冷却し保存しておきます。チルドのままお皿に盛り付け、トレイに一人ずつセットしてから再加熱カート(配膳車)に入れカートの中で温かいものは温められ、冷たいものは



◇2Fフロア紹介◇

2Fフロア担当：矢澤 澄子

2Fフロアの利用者様は車椅子使用ではありませんが、食事や身の回りのことはご自分でできる比較的自立度の高い方が多いフロアで、現在の平均介護度は3.0です。

午前中は週2回の入浴のサービスやリハビリを行っています。午後はカラオケ、体操、ピンポン、風船バレー、習字、脳トレなどのレクリエーションを行っています。利用者様方はテレビを見たり新聞や読書をしたり穏やかな時間を過ごされる一方、利用者様間の交流が活発でお互いに支え合ったり励まし合いながら施設生活を送られています。利用者皆様の自立支援を行いながら、快適な生活が送れるよう温かい介護を心がけています。

◇職員紹介◇

3F介護職員 引地 美貴(ひきち みき)

平成26年7月より武蔵野徳洲苑4Fに配属になり、7か月間勤務した後、3月より3Fに移動になり働くことになりました。入職して1年たたずの異動で各階で仕事内容が違い、覚えることが多く大変な日々ですが、異動したことでたくさんのスタッフ、利用者に関わることが出来て良かったと思っています。仕事ばかりを優先せず、利用者ひとり一人に接し、ニーズに応えられるよう武蔵野徳洲苑でこれからも頑張っていきたいと思えます。



◇職員紹介◇

作業療法士 矢谷 元(やたに げん)

平成27年3月に入職したリハビリの矢谷元です。以前は千葉県にある精神科の病院で約10年間勤務していました。入職より一ヶ月が経ち、利用者様の名前とお顔がやっと一致してきたばかりです。まだまだ右も左も分からず利用者様をはじめスタッフの皆様にもご迷惑を掛ける日々が続くかと思いますが、一日も早く武蔵野徳洲苑のスタッフの一員になれるよう頑張っていきたいと

さたけ散歩(ミニ) 第3回
 ■施設周辺のご案内 「国木田独歩文学碑」
 (武蔵野徳洲苑から徒歩25分)

JR中央本線武蔵境駅北口から徒歩約10分、玉川上水に架かる桜橋のたもとにある「国木田独歩(くにきだどっぼ)文学碑」。石碑には独歩の代表作である『武蔵野』の一節が刻まれています。執筆時、独歩は現在の東京都渋谷区に居住していましたが、毎日のように多摩地域を逍遙し、その実感体験にもとづき『武蔵野』を執筆しました。

制作・編集・印刷・発送
 佐竹 弘太郎/武蔵野徳洲苑広報委員会

〒188-0013
 東京都西東京市向台町3丁目5番57号
 ☎042-465-0800 fax042-465-0812
 医療法人沖繩徳洲会
 介護老人保健施設武蔵野徳洲苑



円居(まどい)

2015年 春号
 医療法人沖繩徳洲会 介護老人保健施設武蔵野徳洲苑 広報誌

介護老人保健施設武蔵野徳洲苑 広報誌のタイトルにある「円居(まどい)」とは、団欒の意。利用者様・ご家族様が集まり、楽しく語り合える施設を目指して名付けました。

「サロンに集まる時などは円居が大抵三つ位に分れて出来た/或る女 有島武郎」



武蔵野徳洲苑 施設長 栗田 明

施設長ご挨拶

わが国の高齢者特に75歳以上の後期高齢者の増加に伴い、高齢者の生活の場所も変化しています。現在自立した生活ができず何らかの介護を受けている高齢者は約200万人以上に達し、認知症を有する高齢者のうち65歳以上の4人に1人が認知症でその予備軍は約400万人と報道されています。現在、わが国には当施設のような認知症のリハビリができる老人保健施設(老健)は735施設あります。最近自宅と比べて施設で終生を迎える傾向にありその比率は7対3であるので、今後高齢者施設の充実が望まれます。さらに薬に頼らずに認知症の症状を改善させるリハビリの効果も実証され、2014年4月から健康保険も老健利用者に適応されるようになりましたが、リハビリを行っている老健の実態についてはあまり知られていないようです。そこで当施設の現況について勤務する医師の立場から報告します。

高齢者を収容する施設として現在介護保険が使用できる施設は老健と特別養護老人ホーム(特養)があります。その大きな違いは表1に示すように老健は“身体をよくする”ことが第一の目標であるので介護リハビリが主となる施設です。これに対し、特養は居住が第一の目標となるので生活の場が主となる施設です。当施設の平均年齢は約88歳と超高齢ですので殆どの入所者は多疾患を持っており、入所者にとって当施設は病院と自宅退院までの中継的な重要な施設です。したがって老健に勤務する医療職の役割は重要で、医師、看護師、リハビリ職員、介護職員、栄養士、社会福祉士らが常駐しています。他方、特養の入所者は通常の医療機関は外来での診察から急変時に受診して治療するのが一般的で、常勤医は必ずしも必要ではなく非常勤医の対応でよいとされています。しかし看護師は入所者数に応じて必要で、栄養士とリハビリ専門職員を1人以上配置する必要があります。さらに特養ではリハビリ専門職員、介護士などの多職員が協議して利用者に対応するのが一般的です。老健や特養の利用者は高齢者が多いので“看取り”対応が求められますが、老健では医師をはじめ医療職員が常駐しているので会議はスムーズに行われる施設が大半です。

つぎに当施設の入所者の罹患疾患について報告します。最も多い疾患は、平成27年2月中旬現在で図1に示すように中枢疾患で62名(22%)、心不全、虚血性心臓病や不整脈を有する心臓病疾患は54名(18.4%)、高血圧疾患が49名(16.7%)です。したがって循環器系の疾患を有する入所者は合計103名(35%)になります。またアルツハイマー型や脳血管性の認知症を有する入所者は46名(15.7%)で骨折などのいわゆるロコモティブ症候群の入所者は47名(16%)です。なお消化器系の疾患を有する入所者は慢性便秘名を加えて35名(11%)です。したがって老健に勤務する医療従事者にとって循環器系疾患のマネジメントは重要です。

最近QOL(クオリティ・オブ・ライフ)が耳慣れた言葉になりました。QOLは日本語では「生活の質」という意味です。入所者のQOLを維持するには苦しみ、痛み、不眠、排泄障害の除去、体を清潔に保持できるように介護することです。介護は英語でcareと書き、癒すというcureに語源が近いと云われています。すなわち究極の介護は癒しに通じます。医療従事者は入所者に一方的に考え方を強いるのではなく入所者の要望に沿うことができるように感性を磨きながら介護ケアに励むことが大切です。当施設では毎朝の朝礼で当施設の理念とその実行方法を唱和

老健と特養の特色(表1)

	老健	特養
入所目的	身体をよくする場 リハビリが中心	居住が中心で生活の場が中心 リハビリは自分の意思
病院との関係	病院から自宅 退院までの中継場所	中継的な意義は稀 状況に応じて対処
医療職の役割	医師、看護師、リハビリ、社会福祉士が常駐	非常勤医、看護師は入所者で異なる、機能訓練士、介護職員
医療行為	定時処方、薬剤師や管理栄養士との協力	薬剤師や栄養士との協力は状況に応じて行う

入所者の疾患名(図1)



武蔵野徳洲苑 新年会 開催



謹賀新年



平成27年1月18日(日)に新年会を開催いたしました。今年は保谷和太鼓の方々をお迎えし、勇壮な太鼓の響きで入所者の方々より「迫力のある太鼓の音が聞けてとても良い新年会になり嬉しかった」というお言葉を頂きました。新しい年を無事に迎えられたことを期に、入所者の皆様がいつまでもお元気にお過ごしできるように職員一同努力して参りますので、今後とも宜しくお願い致します。

お買い物サロン開催 3月15日(日)



昨年9月に開催してご好評いただきました「お買い物サロン」を3月15日(日)に開催し、今回は41名のご利用者様・ご家族様にご参加いただきました。季節もだんだんと暖くなり、春物の衣類を手に取り真剣な表情でお買い物を楽しむご利用者様。皆様お気に入りの洋服が見つかり、ご満足されたようです。

お買い物サロンは年2回の開催を予定しております。また次回の開催が決まりましたら告知させていただきます。



介護予防運動指導員講習講座



まつど徳洲苑で5日間かけて受講してきました。そこで学んだことは筋力向上、転倒予防、尿失禁予防の3つです。トレーニングマシンの仕組みや実際に使ってみて、利用者様が安全に利用できるように指導したりする演習をしました。筋力向上では皆の前で体操を試したり、手や足の筋を曲げ伸ばして分かりやすいように説明などしました。尿失禁予防は、椅子に座った状態で肛門や尿道を締めたり緩めたりし、括約筋や骨盤底筋を鍛えて『腹圧性尿失禁』の予防になるトレーニングも学びました。最後に、この介護予防運動指導を通じて、嚥下体操や人前で簡単な体操などして、もっと身近に知っていただいて、運動の大切さを指導できるようになりたいと思います。

◆協力医療機関のご案内◆

東京西徳洲会病院
東京都昭島市松原町3丁目1番1号
☎042-500-4433(代表)

徳洲新聞 毎週月曜日発行 当施設受付にて

私たち武蔵野徳洲苑は、地域に根ざした頼りになる施設を目指します。誰もが最善の福祉を受けられる社会を目指して。

さたけ散歩

東京都内にある江戸～現代の史跡や名所を散策。これを読めば東京通になれる。毎週月曜日、施設受付・デ

高齢者の呼吸器疾患

平成26年度の厚労省の統計によると肺炎による死亡は90歳以上の超高齢者では、心不全を含む心血管系による死因について第2位と急増し、その多くは嚥下性肺炎です。呼吸器は酸素と炭酸ガスを交換するガス交換が主な作用です。ガス交換は表面積70~100㎡、約3億の肺胞により毎分約4~7ℓの血液が肺胞を通過することにより行われています。肺胞線毛上皮には肺を守るため免疫系の生体防御作用がありますが、加齢とともに下図に示すように免疫能力は低下し、コラーゲンなどの物質が沈着することにより気道が細くなり感染を起こしやすくなります。呼吸器に病原微生物が侵入すると、さまざまな仕組みで排除されます。鼻腔や喉の粘膜では大きな粒子を捕えます。もし小さな粒子が気管に入ると咳をして外に排出されます。残った粒子は気管支の細毛で外に排出されます。高齢者の場合、いろいろな疾患を同時に持っている比率が高いため、全身の免疫能力の低下と相俟って肺炎が発症しやすくなります。呼吸困難があり、38℃以上の発熱と酸素飽和度が90%以下の場合は日常生活動作(ADL)が著しく低下します。肺炎の既往歴やいろいろの基礎疾患などのある入所者は病院に入院して加療が必要になるので要注意です。

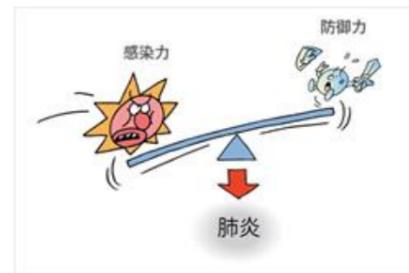
肺炎の治療の原則は症状をやわらげるための鎮咳薬、解熱剤及び病原微生物を死滅させる抗菌薬が中心です。そして体力や抵抗力を高めるために保温や安静が大切です。さらに発熱や食欲不振による脱水症状を防ぐため栄養を十分補給することです。今年は当施設でインフルエンザが流行しました。当施設では厚労省の指示に従いインフルエンザ反応陽性者は個室に隔離していただくとともに抗インフルエンザ薬のタミフルを投与すると同時に、ほかの入所者や職員に予防投与し手洗いマスクなどで対処したところ、うまくコントロールすることができました。皆様のご協力に感謝致します。

嚥下性肺炎予防には口腔ケアのほかに、東北大学のグループにより七味唐辛子に含まれているカプサイシンが有効であるとの報告が最近米国のAm J Geriatrics誌に発表されました。当施設でも積極的に応用したいと考えています。

以上、高齢者の肺感染症について概略致しました。当施設は入所者やご家族が納得できるような介護ケアに励んでまいりますのでいろいろなアドバイスなど頂ければ幸いです。

施設長 栗田 明

肺炎のメカニズム



武蔵野徳洲会病院 平成27年6月1日 開院(予定)

平成27年6月1日、徳洲会グループの新病院である武蔵野徳洲会病院が、武蔵野徳洲苑の隣にオープンします。

東京都多摩地区の医療を東京西徳洲会病院と武蔵野徳洲苑で三位一体となり、支えていきます。

病床数 : 210床(一般160床・療養病棟50床)
構造 : 地下1階/地上6階/ヘリポート
診療科目 : 内科・外科・循環器内科・整形外科・小児科・泌尿器科・心臓血管外科
形成外科・消化器内科・神経内科・腎臓内科・放射線科

【内覧会のご案内】

武蔵野徳洲会病院が平成27年4月15日に竣工の運びとなります。つきましては下記の日程で内覧会を実施致します。一般の方の内覧も可能ですので、ぜひお越しください。

平成27年5月24日(日) 内覧会受付 午前10時~14時(予定)

お問い合わせは下記の施設準備室へご連絡下さい。

